

1979年 6月 30日

談話会通信 No. 28

東京蜘蛛談話会

夏の観察採集会	-----1
きまぐれポスト	-----2
談話室、会費報告	----次号
けいはいばん	-----8

◎新入会員

- ・早乙女 薫 〒187 東京都小平市小川町 1-502-95
都立小平西高等学校内
- ・神子島 毅 〒187 東京都小平市上水南町 503

◎住所変更

- ・斉藤 博 〒326 栃木県足利市旭町 3-772
- ・松井 均 〒314 茨城県鹿島郡鹿島町大字宮中字伏見 448-2
清真学園住宅 4-9
- ・大利 昌久 Masahisa. OWRI, MD
% Embassy of Japan
Wabera St., Nairobi, KENYA
P.O. BOX. 60202

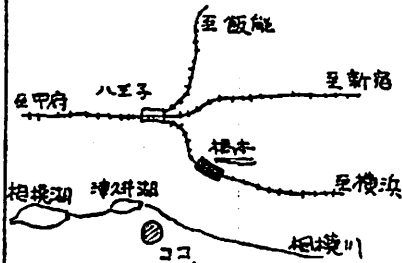
夏の観察・採集会 7月29日(日)

日時: 7月29日(日) 10:00 A.M

集合場所: 国鉄横浜線 橋本駅前(八王子から3つ目)

観察採集場所: 津久井 城山

持ちもの 昼食、採集用具、筆記用具など。



—連絡先—

高橋 登 044. 288. 2921

松浦 祐司 044. 422. 2842

きまぐれポスト

▶ 松本さんより

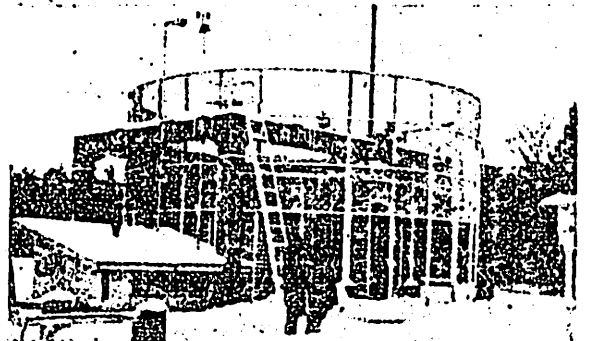
ワモの糸が望遠鏡
による観測に利用
されているという記事
をいただきました。



日本の観測と世界の観測

これは少し我田引水になるかもしれませんが、日本の観測者の優秀性の第一としてあげられることは、いわば生真面目な几帳面さということではないでしょうか。水沢の観測が緯度の観測でいつも優位に立っているのは、非常に着実に計算結果に対すしチェックする態度にあると思います。それからこれはよくいわれることですが、手先が器用であることも特徴の一つとしてあげられるでしょう。当所に木村先生の時代から三〇年近くもおられる平三郎氏は昨年、科学技術庁からも岩手県の代表として表彰をうけましたが、この工

日本の観測者



観測所は雪で白くおおわれていた。建物は風除けで囲まれた浮遊天頂候室。(写真はいづれも後藤常男氏撮影)

り方については、木村先生の『観測心得』にもくわしく書いてありますが(木村・天文観測心得、一八五〇一八七ページ、物理実験学所蔵、河出書房、一九四〇年)、ワモとワモはワモとワモを山に行つてさかしてきて、これが集を張る前につくるちよりどカイコのまゆを小さくしたようなものから、一本一本糸をとり出してよりをもとずのです。これをレコードの針でガイドしながら望遠鏡の視野にはりつけるコツなど、非公開な部分も多いのですが、この技術はドイツあたりの流れをくむものらしく、木村先生がもつてこられたものだと思います。

場であえず技術に
すがきを
かけてお
られ、と
くにワモ
糸の張り
方につい
ては名人
芸といっ
てもよい
でしょう。
望遠鏡
の視野に
つけるク
モ糸のは

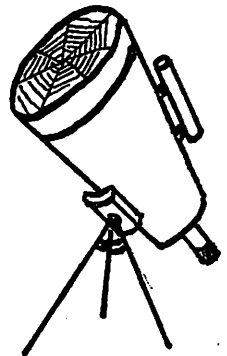
日本の観測者

定価 380円

昭和38年2月10日 刷
昭和38年3月15日 発 行

編著者 根 本 順 吉
発行者 土 居 客 郎
印刷者 福 神 和 三

発行所 東京都新宿区三栄町8番 株式会社 恒星社厚生閣
振替東京59600番



▶ 藤井悦子さんより

(クモの会)という会への入会案内をいただきました。
現在の会員数は、19名です。談話会の皆さんで入会希望の方は下まで連絡して下さい。

《クモの会》へどうぞ

およそ4億年前 地球に森が生まれる頃 陸上で空気を呼吸して生きる最初の動物(ヤスデ・サソリの仲間)が現れました。やがて水辺の魚から陸へ上がれる魚が 更にそれらから 堅い魚鱗をつけたままの両生類が誕生した時 既にクモはカタツムリやトンボ等と共に シダ植物の大森林の中でくらしていました。

古生代半ばからの長い淘汰に耐えたクモのくらしは 大変おもしろいものですが 十分に知られていない点がたくさんあります。また 一応は調べられていて 実際に観察すると やや曖昧だったり 全く違っていることが少なくありません。

さあ 野外へ出て 大百の謎に包まれたクモのくらしを探り そのすぐれた本能を見極めましょう。そして クモにかかわるさまざまな生物(もちろん人間も含めて)へ目と耳を向けながら 自然のしくみ 社会のしくみについて 考えてゆきましょう。

私達はクモが好きなんはもとより クモが嫌いなん クモが怖いんも 歓迎します。入会を希望される方は住所氏名 電話番号を明記の上 年会費1,000円をえてお申し込み下さい。ために参加なさりたい方は 往復ハガキで 御連絡各下さいは 翌日の御案内をいたします。但 採集 標本づくりは 御遠慮下さい。

〒272 市川市 中国分 1-18-20 藤井方
Tel. 0473-71-4008

クモの会

活動としては 毎月の観察会と
THE WONDER LAND OF SPIDERS, クモの世界, という
会誌の発行のようです。



受賞に輝く 人と作品



選考委員

稲垣友次(成蹊大学教授)、
 近藤正夫(学習院大学教授)、
 蟹谷好(東京都目黒区立五本
 木小教諭)、神宮輝夫(青山
 学院大学教授)、宮田義雄(文
 教大教授)、中谷山彦(洋画
 家)、淵川道夫(東京成徳短
 大教授)、深沢紅子(洋画
 家)、福田清人(児童文学
 者)、藤久保山太郎(児童文
 字者)、八杉原一(早大教
 授)、与田雄一(児童文学
 者)▽本社側：後台事業本部長
 長・野地一男、編集局長・盛文
 化本部長・小池栄夫

第二十六回サンケイ児童出版文化賞は、一冊掲載の社営のつくり決まった。別掲の選考委員が、有識者からのアンケートによる推薦、各出版社からの自薦などを参考に、慎重に審議をかきね、選考対象圖書千五百余冊の中から選出したものである。

第26回サンケイ児童出版文化賞

子どもは素直であつて、い力がひびくりする言葉を、本である。この感動が大賞を射止めた「オトシブミ」である。



オトシブミ
 写真と文 千国 安之輔

「カラスのおみやげ」とか、「三羽の怪し物」、「ホトトギス」など、風雅な味、美しい文学的

大賞の千国 安之輔さん

「オトシブミ」は長二寸五厘の長さが、クリの殻を巧みに着せ込み、幼虫のゆりかごを作る。人間でも言葉を操る種族動物本能の持ち主。この神秘的な生態に児童が疑問と興味を覚えてくれれば、出版商は喜ばれます。疑問を自然観察を通じて解明、真実を知る喜びという追究のプロセスが、児童の探究心、人間形成を促す。と、この木の下の落ちてくる「カラスのおみやげ」と呼ばれる謎の虫はなんだろう」と児童に疑問をもち、探究心を呼び起す。

こどもの探究心 呼び起こす

○内容は読み物ですが、二十数年前に理科教師をしていた学校で、三年生がオトシブミの発生を持ち込み、これがきっかけで児童と二階に山の木に登り、二年間じゅう観察した記録です。空想の産物でないから

れるクリの葉の筒を縦にオトシブミの生虫を挿すのである。展開は文字で記述して、写真の挿入、自然の謎に対する問題解決の鮮明さが、読者に受け入れられる。

著者が小学校の教師と、版中の経験を、ひとりのなりかわって、動物園に

社の粗みカラー写真を児童学生でも理解しやすいようにする。

○「出版にゆえ、何百というオトシブミのカラー写真を出版社に持ち込むと、なんとカラー写真を扱うスタッフが少なくて、印刷の遅れや、色あせの恐れがあります。印刷にゆえ、努力された印刷に感謝しています。からも敬愛を離れた元教師で、自然観察シリーズの版を通じて教育のお手伝いを行います。

◇ ちへん・おまのすけー

▶ 藤井悦子さんより、いただきました。

アイヌ民族の神話から

(一)

ばけらのどもが
 笑いざわめき
 泣きさわぎながら
 どれくらいの大きさに
 われわれが化けて
 人間をだましたら
 いいだろうか
 スズメくらいの大きさに
 われわれが化けて
 人間をだましたら
 いけないだろうか
 そう彼らが言うので
 こう私は答えた。
 そんなに大きい
 体をした者が
 見とがめられずに
 人間をだませる
 ものだろうか

(二)

私が答えると
 ばけらのどもは
 泣きさわぎ
 笑いざわめきながら
 どれくらいの大きさに
 われわれが化けて
 人間をだましたら
 いいだろうか
 アブくらいの大きさに
 われわれが化けて
 人間をだましたら
 いけないだろうか

(以下略)

(三)

(くり返し略)

「カぐらいの大きさは
どうだろう」

(四)

「ブヨぐらいの大きさは
どうだろう」

(五)

「又カカぐらいの大きさは
 どうだろう」
 そう彼らが言うと
 私は答えた
 それならよかう
 又カカぐらいの大きさを
 まずまず大丈夫だろうと思う

(六)

私が答えると
 彼らは喜んで
 笑いざわめき
 泣きさわいでいた
 その間に
 私の造っていった小さな網
 黄金の美しい網が
 みごとに出て上った
 それを彼らにがばっとかぶせ
 一匹残らず
 網にくるくる巻いて
 だんごに丸めて
 つぶしてしまい
 二度と世界に現れないように
 してしま、た
 ーと
 老いたクモが
 物語、っていた。

佐藤幸子 さんより

続、与野市大字大戸の番地のクモ

引越してから9ヶ月が過ぎました。コンクリートのテラスと庭の芝生との境目が地下茎と葉でフサフサと生えており、又コンクリートの最下部がポコポコと穴あきだらけ。

1978年11月、その場所をあけて見ますと、いまいましいクモだらけです。まずツボグモが大中小とめっちゃくちゃにいます。次にコモリグモが三種類、これは中小とコンクリートの穴に糸を張って出ていたり出ていたり。この場所はクモの越冬場所と見定め1人でニタニタしていました。

1979年1月、例の場所をあけて見ましたが、いまいましいのはコモリグモだけでツボグモは一匹も見当りません。どこに行ったのか血眼になつてさがしましたがどうしてもみつかりませんでした。

2月まだぬい……。

3月 いっぱいこからプレ、フキなどの昨年11月に見たと少しちがわない有様で、コモリグモ、ツボグモが大中小をうろうろと動いている向に今度は、でっぴり太ったヤミイロカニグモが仲間入りしています。

4月、アリの団立が始まりました。例の場所もアリの住居となつていまして、でた、でた、元気のいいアオオビハエトリが仲間入り。そしてネコハエトリとヨダンハエトリが時々姿を現します。コクサグモの小さいのがチョロチョロ右往左往しているので護めにたづねられてほめられないかと心配です。そんな具合で今自分で何をしてよいのか非常に困っている次第です。

昨年7月から今日までわかつたクモの種類、次の通りです

ミスヅハエトリ、ツラビゲハエトリ、ネコハエトリ、アオオビハエトリ、マミヅロハエトリ、キレワハエトリ、カラスハエトリ、カラスハエトリ、ヨダンハエトリ、オオハエトリ、アサヒハエトリの仲間、アリグモ、タイリクアリグモ、オオヒメグモ、バラギヒメグモ、ヒロハヒメグモ、ヤホシヒメグモ、スネグロオオカビメグモ、ユカタヤマツグモ、キツノウエトダテグモ、ツグモ、オニグモ、イエオニグモ、ズグロオニグモ、うズグモ、ツボグモ、ヒラタグモ、ネコハグモ、キハダカニグモ、ヤミイロカニグモ、ハナグモ、ワカバグモ、アサヒエビグモ、アズマヤケグモ、ツモフリヤケグモ、メガネヤケグモ、セムシアカムネグモ、ニセアカムネグモ、クロケツグモ、クサグモ、コクサグモ、ツヨロウグモ、アツマキツグモ、イオウイロハツグモ、ヤマトクログモ、ネコグモ、ツモフリミツグモ、ウロコア、ツナグモ、エビヤケムリグモ、うズキコモリグモ、カイズクコモリグモの一種、コモリグモの新種、キヨヒメグモ

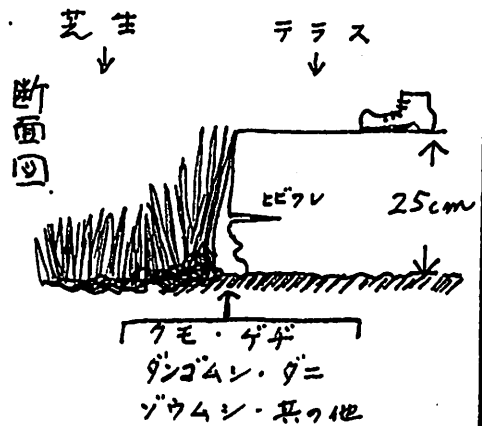
「続」恋のシーズン

10月、ネコハグモ、コクサグモ、ツボグモ

11月、アズマヤケ

5-6月 ツボグモ、ヤミイロカニグモ、エビヤケムリグモ

(4月にツモフリヤケグモの♂が出て来たのですが、パルグが又つとまありませんでした。)



掲示板

KISHIDAIA 編集局が

6月24日の総会におきまして
以下のように変更になりました
たのでお知らせいたします。

住所 〒357 埼玉県飯能市本町5-4

氏名 嶋田 順一

これからの KISHIDAIA の原稿等
は、嶋田さん宛にお願い
いたします。

● 会費について

今年度も6月が終わりました。
今年度会費未納の方は、
なるべく平目に事務局まで
お願いいたします。

一般 2,800円
中高生 2,000円

振り込み 東京 7-74885
事務局
東京都国分寺市本町1-6-6
シカイ写真館内 新海栄一

編集後記

通信がお手元にとどくのが、
たいへん遅くなりまして
申し分ありません。

原稿が少なく困っております
ので よろしくお願ひします。
尚、発行に關しての全責任は松浦
にあります。

慶事板

国見 裕久さんが去る
3月21日に結婚されました。

者

新婦の名前は不明。教えてくれませんか。
新居は錦糸町とのこと。

● おわび

通信 27号の住所変更の欄で
東亜蜘蛛学会が談話会の会員
のように扱われておりますので
ここにこれをおわびいたします。

東亜蜘蛛学会

〒567

大阪府茨木市西安威

2-1-15

追手門学院大学生物学研究室

東京蜘蛛談話会

通信 28号

1979年 6月30日 発行

本部

〒191 東京都日野市豊田 1896

萱嶋 泉 方 TEL. 0425(81)7128

発行責任者: (原稿受付)

〒211 神奈川県川崎市中原区

芦宿 612

松浦 祐司 TEL 044(422)2842